

バーバリー・コースト (1935)

BARBARY COAST

メディア 映画

ジャンル アクション ロマン스 コメディ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 90分

初公開日 1936/09

公開情報 劇場公開

【解説】

1849年、ゴールド・ラッシュに沸くサンフランシスコに、一艘の帆船がたどり着く。大金脈を掘り当てた男に嫁ごうというメリー（ホプキンス）は珍しい白人の女の船客で、荒くれ男たちの大喝采を受け港に降り立つ。が、婚約者はカジノで有り金一切をすって悶着を起こし殺された後だった。茫然自失の彼女にカジノのオーナー、ルイ（ロビンソン）は共同経営の話を持ちかける。彼女がディーラーとして立てば、その美貌目当てに男がわんさと詰めかけ、仕掛けをしたルーレットで大散財するとふんだのだ。もくろみは的中し、彼女は男たちの血と汗の結晶をいとも簡単に吸い取った。一方、彼女と同じ船で当地に着いたコップ大佐は新聞で、ルイの悪行を暴き立てるが、ルイは用心棒ナックルを使ってこれを押さえた。メリーはそんな生活に嫌気がさし、馬の遠乗りに気を紛らわせるが、雨にたたられ、野原の小屋の厄介になる。そこは金鉱でひと山当てたNY出身のジェイムズ（マクリー）の住み家だった。詩人肌の彼との語らいにしばし時を忘れるメリー。カジノには用心するよう言っただけだが、ジェイムズは客引きの老人に連れられ店にやって来て、男を誘う彼女にいたく失望し、ルーレットに全てを失うが、老人の機転で一部を取り戻す。そこで再度勝負を挑むと、メリーは手心を加えて、彼に大枚をつかませるのだった……。

「天井桟敷の人々」のラスネール風のロビンソンはミスキャスト。ペダンティックな台詞はうるさいが、前段の港の賑わいの描写はホークスらしく豪壮で、霧の情景にはロマンが溢れている。

【クレジット】

監督	ハワード・ホークス	Howard Hawks
製作	サミュエル・ゴールドウィン	Samuel Goldwyn
脚本	ベン・ヘクト	Ben Hecht
	チャールズ・マッカーサー	Charles MacArthur
撮影	レイ・ジューン	Ray June
音楽監督	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
出演	ミリアム・ホプキンス	Miriam Hopkins
	エドワード・G・ロビンソン	Edward G. Robinson
	ジョエル・マクリー	Joel McCrea
	ウォルター・ブレナン	Walter Brennan
	フランク・クレイヴン	Frank Craven
	ブライアン・ドンレヴィ	Brian Donlevy
	ハリー・ケリー	Harry Carey